

Summary of Student Session
The 13th Tripartite Environmental Ministers` Meeting
28th April 2011, BEXCO Busan, Korea
(学生セッションのまとめ)
(仮訳)

テーマ1 グリーン・キャンパス

日中韓三カ国のプレゼンテーションの後、グリーン・キャンパスについて、大学のインフラと、学生や教員の参加の2つの側面から議論した。

インフラは大学キャンパスにおける、直接人が関与しない活動、システム、規則を指す。グリーン・キャンパスを作るためには、環境保全に配慮した建物、キャンパスの緑化が求められる。環境に配慮した建物では、資源効率の良いマネジメントと運営が必要である。加えて、革新的な技術が、グリーン・キャンパスを作る際に必要である。

気候変動問題に対する意識を高めるために、持続可能な環境についてのコースワークが現行の教育カリキュラムに加えられるべきである。廃棄物マネジメントと水の再利用のための適切なシステムが作られるべきである。私たちはインターネットを使ったコミュニケーションによって情報を共有することができ、新たなアイデアを産むことができる。

第二に、学生、教員といった活動への参加者は、地域社会の持続可能な開発の「先導的役割」を果たすべきである。加えて、「グリーンな大学」は、NGO、政府そして様々なコミュニティにおける気候変動の認識にパートナーシップを提供する。学生は、グリーン・キャンパス活動への参加が奨励される。寄付と再利用は、グリーン・キャンパスのために活発化されなければならない。三カ国における寄付や再利用といった活動は、このネットワークによって交換されるであろう。従って、地域的な協同と交換プログラムを強化する必要がある。

グリーン・キャンパスの実現には、複数の障壁がある。第一に、最も重要な障壁は、資金の問題である。大学は、グリーン・キャンパス活動に予算を割り当てるべきである。第二の障壁は、環境問題に対する学生の意識の低さである。グリーン・キャンパスのマネジメントに当たっては、検証と評価を含む、継続した積極的関与が求められる。第三に、行動を起こさせる動機付けとインセンティブの欠如である。学生と大学事務レベルの関係は、グリーン・キャンパスの実現にリンクしなければならない。大学や組織間において、情報共有の欠如が認められる。

テーマ2 グリーン・リーダー

各国代表は、各々グリーン・リーダーの活動を紹介した。私たちはグリーン・リーダーには誰でもなれると信じている。しかしながら、グリーン・リーダーは環境保護と持続可能性に関する高い意識を持っている必要がある。グリーン・リーダーは、環境保護に向けた行動と配慮へと、市民を先導しなければならない。

グリーン・リーダーは、次の複数の要件を備える必要がある。グリーン・リーダーは、異なる背景、社会、意見、歴史の多様性を尊重しなければならない。グリーン・リーダーは、環境と持続可能な開発に関する、行動を含む知識を有さなければならない。また、グリーン・リーダーは、環境保護に向けた情熱と粘り強さを有さなければならない。

フォーラムでは日中韓三カ国におけるグリーン・リーダーの例が紹介された。例えば、中国における「1000名の青年による環境保護大使行動」（「1000名青年環境友好使者行動」）、日本におけるエコ・リーグ（全国青年環境連盟）、韓国におけるグリーン・スタート・キャンペーンである。

「1000名の青年による環境保護大使行動」は、将来の環境パイオニアとして若者のリーダーシップを涵養することを目指している。これは、様々な形態の研修、交換プログラム、その他の環境に関する活動を含む。日本のエコ・リーグは、人的資源、知識技術の開発、そして市民の環境問題への意識を向上させるために、若者のネットワークの拡大とその活動を促進している。韓国のグリーン・スタート・キャンペーンは、グリーン・リーダーを養成する3つの異なった教育プログラムを提供している。

結論

本フォーラムでは、グリーン・キャンパスの実現に向けた取り組みとグリーン・リーダーに必要な要件を議論した。最も重要なことは、情報を共有し、情報交換を行うことである。フォーラムでは、多様な価値観を理解し、様々な環境問題について議論し、社会への理解を深めるための良い手本となるモデルが提案された。我々は、このネットワークを通じ、グリーン・キャリア計画、インターンシップ、職の情報についても提案していきたい。

以上